

男性保育者について教えて！

和泉短大卒業生の男性保育者に聞きました

本学では毎年入学者全体の1割程度の男性（20名前後）が入学します

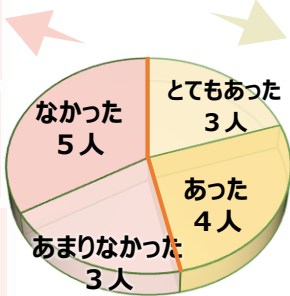
保育者歴1年目から5年目の15名の卒業生へのインタビュー調査(2022)

保育学生時代、男性であることでの不安はありましたか？

男女問わず周囲の人が優しくった。

男性である強みの方が大きいと思っていた。

性別で変わるものは、限られていると思っていた。



男性が大学に居るのか不安だった。

男性保育士が少ない中で、自分の保育が社会に出て通用するのが不安だった。

男性保育者であることで特に留意する事項はありますか？

私は声が低いので、威圧的にならないように、トーンや言葉選びを意識しています。

常に保護者や他の保育士から信頼を得ることが必要だという心構えをもっています。

園で女児の着替えやおむつ替えなどには決まりがあります。誤解を与えないように気をつける必要があります。

保育者にとって一番大切なことは何ですか？

子どもに寄り添うこと

子どもを第一に考えること

子どもを好きでいること

受け止める力 挨拶

日々、子どもから学び続けて行くこと

子ども中心で保育者は陰で成長を支える姿勢

学び続ける気持ち

子どもと正面から向き合い、ひとりの人として接すること

しかし、子どもや保護者や同僚などからの信頼を得る努力は性差による違いがあるわけではありません。

本学卒業生へのインタビューの結果から、性別の違いによって保育者の資質が大きく変わるというよりは、それぞれの人の特性を意識して活かしていくことが大切であることが分かります。

現代社会の保育・教育の世界においては男性は、子どもや子どもを取り巻く人々への誤解を与えない配慮が必要で、信頼を得ていく努力が必要です。

実際には男性も女性も変わらず子ども（他者）に敬意をもって接することができる人間性

保育者を志す方には、特に「保育への情熱や意欲」「子どもや他者への敬意ある態度」「コミュニケーションにより保育を進めていく力」が必要だと分かりました。これらは「子どもの側に立ち、寄り添い、他者からの信頼を得る」ということだと言えるでしょう。

実習園アンケートから、保育者を志す方には、専門的な教育を通しての人格形成により、自らの人間性を磨くことができる養成校へ進学が必要だと分かります。和泉短期大学には、「愛と奉仕」のスクールモットーで、教師と友と共に学び成長できる大学教育があります。

